

記事URL：

https://bizboard.nikkeibp.co.jp/bp_bto/atcl/news/p1/23/06/26/10848/

このページに掲載されている記事、写真、図表などの無断転載を禁じます。
著作権は日経BP、または、その他執筆者に帰属します。
なお、掲載している情報は、記事執筆時点のものです。

アズフレイヤ、東京・江東区でラボ完成記念開所式を挙行

2分

2023.06.29 小崎丈太郎 = 医学・生命科学記者



ラボの内覧会の様子。場所は新木場駅から徒歩10分ほど

エクソソーム素材の事業化を目指す、スタートアップのアズフレイヤ（大阪市、國木幸恵代表取締役CEO）が東京都江東区に新たにラボを完成させ、2023年6月16日、関係者を招いて開所式を行った。同社の榎本滋取締役社長COOは「新規ラボのオープンを機に、研究員も増やすなど業容を拡大したい」と抱負を語っている。

アズフレイヤは、2017年に設立されたスタートアップで、種々の幹細胞培養上清、凍結乾燥パウダー、化粧品原料として歯髄細胞、脂肪細胞、臍帯細胞などの純化培養液などの製造販売や再生医療の導入に伴うコンサルティングなどを業務としている。榎本社長は「日本再生医療学会総会で、東京医科大学総合研究所落谷孝広教授のエクソソームに関する講演を聴いたことが、アズフレイヤを立ち上げる大き

な動機になった。落谷先生のエクソソーム研究を全力でサポートし、新しい創薬を目指す」と挨拶した。

新ラボの場所は、東京都江東区木場の三井リンクラボ新木場1。面積は約495平方メートルほど。極微量で生理機能を発揮するエクソソームを解析するためのデジタルELISA技術を用いた自動イムノアッセイプラットフォームの「Simoa HD-X Analyzer」なども導入している。



榎本滋社長は武田薬品工業で医薬ライセンス部長、欧州武田医薬部長を務めた経歴を持つ

■変更履歴

事実誤認があったため、当初の記事から一部記載を削除しました。[2023/6/29 10:00]

日経BP

Copyright Nikkei Business Publications, Inc.